



開物成務

令和7年7月17（木）発行

校長 大越 泰子

いよいよ夏休み

来週からいよいよ夏休みです。皆さんは1学期の72日間は、長く感じましたか？ 短く感じましたか？

一般的に、年齢が高くなるにつれて、時間が過ぎる感覚が短くなると言われています。それは、1年が人生全体に対する割合が小さくなり、相対的に短く感じられるからです。一方、子どもは人生全体のうち1年が占める割合が高いため、時間が過ぎるのが長く感じるというのです。また、新しい経験や、強い刺激は脳に記憶として鮮明に残りやすいので、時間が長く感じられるともいわれています。長く感じたということは、見方を変えれば、毎日、新しいことを吸収しながら成長してきたともいえますね。

デジタル機器との上手な付き合い方

その一方で、デジタル技術の進化により私たちの脳は絶えず新しい情報にさらされ、それらに対応するため高速で情報処理を行っています。情報の流れが速くなるほど脳はそれらを次々と消化するため、結果的に時間の経過が速く感じられるというのです。

6月23日に全校で行った情報モラル学習で、講師の方から、「人間は新しい情報に出会うと、脳からドーパミンという快楽物質がでます。皆さんもよく見るショート動画などは、視聴者を飽きさせないよう短い動画を次から次へと流し、瞬間的な刺激を与え続けやめられなくなるよう考えて作られています。」というお話がありました。また、見ているときは楽しくても、見終わったあとに印象に残るものが少ないと感じたことはありませんか？それは、脳が大量の情報を素早く処理するために、記憶に残る時間の「密度」を低下させているためだそうです。それを知ってあらためて、人間の脳はよくできているものだなと感じるとともに、その脳の特性を利用されているとも感じました。

私たちは、機械に使われてはいけません。自分で自分をコントロールする力、自分にとって良いもの悪いものを見分ける力など、自分をより成長させるために、デジタル機器との上手な付き合い方を身に付け、有効に活用してほしいと願っています。



スイミー給食

6月24日はスイミー給食でした。ランチメモでもお知らせしましたが

2年生の国語の教科書にのっている、みんなが好きなお話が給食になりました。赤い魚のシチューには、いろいろな野菜も入っていて、具の中から赤い魚が見つかる、嬉しくなりました。「にじいろのゼリーのようなクラゲ」をイメージしたゼリーも食べるのがもったいなかったです。こんな物語の楽しみ方もあることを給食室から教えてくれています。

先生たちの研修会

今年度から7月と12月をC日課とし、午前中に40分授業を5時間行います。給食後、清掃をして13:30に下校しています。心配していた大きな混乱もなく、各学年工夫して時間割を組んでいます。1年生は生活科で水遊びを十分楽しむことができました。写真は、午後に行った職員研修の様子です。成長する心グループの企画により、実技研修を行いました。校内で想定されるケガの対応について理解を深めるとともに、感染拡大を防ぐための嘔吐処理の仕方について、実技を行いました。教職員もC日課により生まれた午後の時間を、有効に活用しています。



第1回家庭教育学級 7月2日（水）

成人教育委員会主催で講師をお招きしてアロマストーンサシェ作りを行いました。制作をとおして会員同士の交流がうまれ、楽しい時間となりました。



水泳の学習 6月30日、7月14日

本校は、プールがありません。そのため、南足柄市の体育センターを利用して水泳の学習を行っています。今年度からは1～6時間目を利用して、2学年ずつ水泳の授業を行いました。体育センターへの往復はバスを使用しています。暑い日でも、雨の日でも中止することなく行えるというのはとてもありがたい一方、他の市の施設を借りているため十分な時間の確保が難しい面もあります。しかし、水泳の日の子どもたちは朝から嬉しそうです。授業での水泳の学習は、家族で行くのとはまた違った楽しみがあります。夏休みに向けて水の事故のニュースも多く聞かれるので、授業をとおして水遊びの楽しさと、危険から身を守るすべを身に付けさせていきたいと思います。第3回は9月8日（月）に予定しています。



いのちの授業 6月24日

これは何の写真かわかりますか？

これは、受精後5日目のメダカの卵の

写真です。6月24日に元開成小学校長の富川孝治先生をお招きして、5年生にメダカの授業をしていただきました。最初にスクリーンに映し出された顕微鏡の画面からは、絶え間なく動く心臓や、赤血球が流れている様子が見えました。時折びくっと動くと、子どもたちも「動いた!」と夢中で見ていました。画面に映っているのは、命そのものの律動でした。その後、富川先生が用意してくださったケースに入った受精卵が配られ顕微鏡で観察しました。さっきの卵との違いに驚くとともに、これからどんな成長をしていくのか、観察する楽しみがわいたようです。小さな命、大切に育てていきたいですね。

あいさつ運動

今月は朝あいさつ運動を行っています。これは、「地域の人や友達などに自分からあいさつができる子になろう」という企画委員会の提案により、代表委員会で決定した活動です。たしかに元気なあいさつが返ってきますが、自分からとなると、まだまだだと感じています。今後は、アンケートをとって、どれくらい意識付けができたかを検証する予定だそうです。子どもたちの問題意識から、主体的な活動が生まれていくのはすばらしいですね。

JA 婦人部 遠藤さん、宇田さんより、玉ねぎ 30 kgを寄付していただきました。宮上さんからも、ホワイトショコラ（トウモロコシ）の注文分の一部を寄付していただきました。地域の皆様ありがとうございます。



校長室の窓から

冒頭で、「感じる時間」の話について書きました。「時間」で思い出すのは、ミヒヤエル・エンデの「モモ」のお話です。叔父から中学時代にもらった厚い本は、クリスマスプレゼントとしては堅苦しくすぐには手に取りませんでした。しかし、読み始めたらその世界観に引き込まれ、夢中になって読んだ思い出があります。今回もう一度手に取って読んでみたのは、「時間泥棒」の存在があったからです。灰色の男たちは、モモの周りの人々に、「時間貯蓄銀行」の口座を開き、人間関係にとらわれる時間や、一人のお客にかけける時間を節約し、貯蓄に回すと高額な利子がつくとすすめます。だまされた人々は、時間泥棒の存在を忘れ、いつしか自分の時間がどんどん短くなっていくことに疑問をもたなくなっていく。人々は、効率をもとめ、高価な品々を手に入れますが幸せそうではありません。余裕がなく、いつもせかせか何か追いついて立っています。「これ今の私たちの生活じゃない？」あらためて読んで、今から50年も前に、現代社会を象徴するような物語が作られていたことに驚きました。時間泥棒に大切な時間を盗まれるのではなく、好きなことに夢中になって時間を忘れる。久しぶりにあった友人と時を忘れておしゃべりする。そんな夏にしたいものです。